

教育実習生よりアドバイス

井上貴恵先生（平成25年卒業 福岡大学法学部経営法学科）

私は高校生の時、部長や委員長になって人の前に立つことを経験しました。そこで私ができなかったことは、「人に指示を出し、お願いをすること」です。なかなか経験できないせつかつのチャンスを無駄にしてしまったと今でも後悔しています。また、2年間同じクラスだったのにその中の限られた人しか仲良くならなかった、仲良くな



ろうとしなかったことを後悔しています。ここまで後悔ばかり書きましたが、女子商生の皆さんに伝えたいのは、今しかできないことを全力でやって欲しいということです。後悔は悪いことではないですが、成功や失敗に関係なく何事も全力で行い、悔いのない笑顔で卒業することを願っています。（地歴・公民担当）



中田夏海先生（平成25年卒業 福岡大学スポーツ学部スポーツ学科）

私は、大学へ進学をしました。受験方法としては、スポーツ特別推薦で小論文と面接がありました。進路の決め手は、部活動でハンドボールの選手になることが夢だったことです。ですから進路選択に迷いはありませんでした。周りの同期の子を見て思うことは、嫌な中でも楽しみのために頑張っているという人が多くて、ただ楽しいから続けているという人が少ないこと



から、何か一つでも楽しみ・やりがいがあることが大事なんだと思いました。良いこと・得することを目的にするのではなく、良いこと・得することのために頑張るという考え方だとどこへ行った時も乗り切れるのだと思います。志望どおりの進路でもそうでなくても、そこで楽しみを持てれば毎日充実して過ごせるから、あきらめずに頑張ってください。（保健・体育担当）



小山田亜以先生（平成25年卒業 九州女子大学人間科学部人間発達学科）



私は高校3年生の時にたくさん怪我をしました。家庭科の授業でミシン針が指を貫通したり、治った日にクラスマッチに出ると小指を骨折したり、不幸なことばかり続いていました。しかし、オープンキャンパスに行った時に折れた指が目立ち、大学の先

生方に覚えていただけました。怪我ばかりしていて憂鬱になっていたけれど、良いこともあったのでポジティブに考えるようになりました。嫌なことでもいかにポジティブに考えるのが大切だと思います。高校生活は何が起こるか分かりません。色々悩むと思います。今できることを精一杯やって後悔しないような高校生活を送って欲しいです。何事もポジティブに考え、色々なことに挑戦して欲しいと思っています。（国語・書道担当）



切り取り線

()学年
質問内容: